

【バスセッション「これまでのあんねっと全体をふりかえって」】

●「気づきや発見」を標語や川柳にしてみよう！

グループ名	Aグループ	Bグループ	Cグループ
川柳	☆サラダのように助けあい ☆ひとつになって ☆生かそう協働	☆育ちあい ☆実際現場で ☆やってみよう	☆知り合って ☆ご縁ができて ☆いい塩梅

【全体トーク「さあ、これから！～今後に向けて」】

●リレートーク

あんねっとカフェで市民の声と市政の架け橋を実現したい。
協働は大切。市民に協働を知ってもらおう。
町内の祭の運営に関わって、実は協働を既にやっていたんだと感じた。
自己啓発のためにあんねっとに入った。町内会と団体の協働をもっと大きな規模にしていきたい。
今は特別なことだけど日常風景になるとよい。新生あんねっとはその一助になれば。
安城市民があんねっとメンバーのレベルになると最高。
協働は目的ではなく手段。例えば個人個人が住みよい町の理想を掲げて「それぞれができること」をやればいいな。
震災が一つのターニングポイントになった。自分の中にあるアクションプランを一人ではなく、皆と一緒に実現したい。
協働は福祉の隙間を埋めるものと考えていたが違った。
あんねっとで得たことを実践していきたい。例えば、自分が今活動しているスクールガードや街路樹愛好会で。一人の力はわずかだが、集まれば大きな力になる。
安城市を幸せな明るい町にしたい。一人より皆で、皆の意見を聞きながら活動したい。皆の明るい活動が明るい安城市につながる。また、活動を始める人たちのかけこみ寺としても役割を担うことができれば。
協働の指針が出来たが、ここからがスタート。啓発活動が大事である。多くの人たちに知ってもらわなければならない。
仕事柄、市民の人と親しくなることに抵抗があったが、ネットワークの構築がトレンドだと気づいた。ネットワークづくり、人材育成に関わることができればと考えている。
あんねっと合計27回休まず参加することができた。そこで得たことで条例を絵に描いたモチにしないように頑張りたい。
今日は楽しい卒業式みたい。
皆の高いモチベーションのおかげで、市民参加条例、協働の指針を完成させることができた。あんねっとメンバーはまちづくりの模範となっている。
安城市に引っ越してきた当初は、緑の無い町だなと思って安城市が嫌いだったが、キツネやタヌキに出会って安城市が好きになった。隣に居る人を好きになることが大事だと思う。
立派な指針が出来てよかった。自分のできる範囲でこれからも関わっていければと思う。